

文部科学省

「主権者教育推進会議」

説明資料

令和2年12月23日

- NPOとしての主権者教育への取り組み -

NPO法人 NEXT CONEXION 越智大貴

NPO法人 NEXT CONEXIONについて

こども・若者とよのなかをつなぎ、よのなかの仕組みを楽しく学びあう

- ○○教育を通じたシティズンシップ教育・主権者教育・SDGs・子どもの権利の研究や実践、学校での出張講座やフォーラムなどを実施。
- また、こども達の居場所作りや中高生の体験活動のプロデュースにも取り組んでいる。

【構成について】

- NPO法人 YOUNG CONEXION

NEXT CONEXIONでシティズンシップ教育・主権者教育活動に取り組む中高生が発足した、中高生によるNPO法人を傘下に抱えている。

1. NEXT CONEXIONの主権者教育の考え方

- 「政治的中立」とどのように向き合っているか

2. NEXT CONEXIONの取組

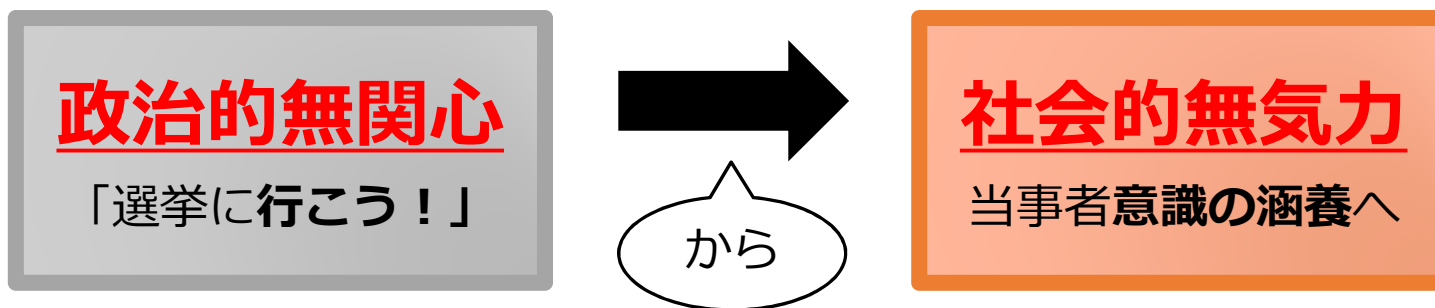
- 教員養成課程の大学生との連携による授業支援

3. まとめ

- 主権者教育の充実に果たすNPOの役割

主権者教育を 選挙で完結しない。

- 投票率UPや政治参加は「結果」ついてくるものである。
- まずは、社会の一員だという「意識を涵養する」ことが大事となる。
そのための資質や能力を育むことに、むしろ重点を置くべきである。
- ➔ 主権者教育では「いかに学ぶかを考える」ことが必要である。



一方で、学校現場がそこに理解がないわけではないが、踏み込めない理由として

「政治的中立」の確保 に対する懸念が挙げられる。

「政治的中立」とどのように向き合っているか①

先生は、政治に「答えがあるのでは」と思っている

「政治」とは（出典：デジタル大辞泉（小学館））

ある社会の **対立や利害を調整** して社会全体を統合するとともに、

社会の意思決定 を行い、これを **実現する** 作用。



そこで、

答えのない答えを **一緒につくる**
 という視点を育てるのが主権者教育

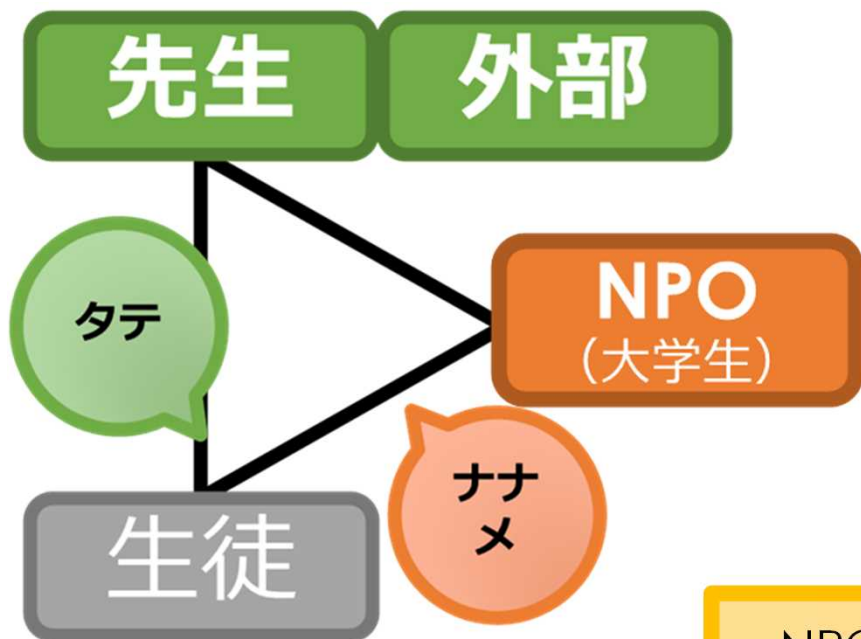
現場の先生の悩み

政治に関する知識がないため、
どう教えたらいいか不安がある



「政治的中立」とどのように向き合っているか②

こどもは、先生は「おそらく正しい」と思っている



- 学校では、先生と生徒は「タテ」の関係であり、かつ「正解主義」的であることが現実である。
 - 教員が本音を言わない（言えない）のに、生徒はなかなか言えない。
- ➔ これが、政治的中立の確保が難しい理由の1つとなっている印象がある。

NPO（大学生）が授業に参加することで、「ナナメ」の関係を意識した授業を展開する。

「政治的中立」とどのように向き合っているか③

- 政治的中立の確保に関する2つの課題 -

- 先生も、実際の政治的課題に取り組みたいと思っているが、「政治」に対する知識に不安があり、また授業の準備に対しても不安があるため、「投票体験」がメインになってしまう。
- 「先生」と「生徒」というタテの関係の中に「正解主義」がある。



- それらを踏まえた取り組みに対する課題 -

- 「正解主義」からの脱却を目指すべきであり、そのためには学校外との連携が不可欠だが、現状はなかなか進んでいない。
- 投票体験中心の「啓発教育」では、本来養うべき主権者意識の涵養につながらないのではないか。

NEXT CONEXIONの3つの『つなぐ』取り組み

① 『○○教育』をつなぐ

➔ 教育プログラムの研究・開発・実践

② 『学校と社会』をつなぐ

➔ 学校や地域・行政機関との協働

③ 『子どもとよのなか』をつなぐ

➔ 小中高生の体験学習のサポート・支援

大学生を中心とした授業づくり

教育プログラムの研究・開発・実践

□ 授業の作成

- 自分の気になるテーマから自ら開発することで、大学生の経験につなげる。
- 「啓発」ではなく「**批判**」を大事にすることで、政治的中立に配慮する。

「吟味」し「**議論**」する

□ 授業の実践

- 学校で出張講座をしたり、法人主催のよのなかすくーるで実践をする。

□ フォーラムを実施（予定）し、報告

大学生を中心とした授業づくり

☑ 授業の作成

● 自ら開発する

- 大学生が、自分の気になるテーマから授業を作成する。その際、必ずフィールドワークを行うなど「外とのつながり」を意識した授業開発を心がける。
- 「〇〇教育」をつなげたり、各教科の「横断型」の構成に対応できるように、「社会科」に依拠した授業づくりは行わない。

● 「啓発」ではなく「批判」を大事にする

- 外部人材と連携の際は、「〇〇教育による啓発講座」にならないように強く意識する。そのため、ミーティングの中では、授業内容について全員でチェックをし、議論をしている。

大学生を中心とした授業づくり

☑ 授業の作成

【ミーティングで大事にしていること】

- **議論を「尽くす」**。中途半端な形で終わったり、意見が言いづらい環境を作らないよう配慮し、多様な意見が反映されるよう全員が心がける。
- 参加希望者を制限しない。**開かれた環境**で行うようにしている。

- NEXT CONEXIONの主権者教育で大事にしている4つのポイント -

- ① 相手の意見をよく聞き、学びあう。
- ② 開いた心で、いろいろな意見を認め合う。
- ③ 遠慮せず話す。
- ④ 議論を楽しむ。

出張講座でも
必ず共有する

大学生を中心とした授業づくり

☑ 授業の実践

学校で実施する場合は、2プラン用意

● 同一授業型

- 大学生が同じ内容のものを扱うが、受講場所は各教室で実施する。
- 各教室で実施することにより、体育館で一斉に講演会を行うよりも効率的にワークショップを行うことができる。

● 選択授業型

- 大学生が複数の授業を用意し、あらかじめ生徒が選択して受講する。
- こうすることにより、生徒が関心ある内容から学習できる。また、大学生にとっても授業作成や実施をする経験ができ、自分たちの学びにつながる。

大学生を中心とした授業づくり



学校	学年	実施月	提供したテーマ
私立愛光高等学校	1年	2019年 2月	メディア、財政、教育、法、国際文化
川之江高等学校	3年	2019年 10月	貧困・教育・エネルギー・まちづくり・環境・貿易
野村高等学校	全校	2019年 10月	貧困・教育・エネルギー・フェアトレード・貿易
松山商業高等学校	1年 2年	2019年 11月	貧困・教育・エネルギー・フェアトレード・貿易・まちづくり・ごみ問題・多様性社会・ジェンダー
愛光高等学校	1年	2020年 2月	エネルギー・ごみ問題・まちづくり・多様性社会・租税
北条高等学校	3年	2020年 10月	認知症裁判、情報、環境
松山商業高等学校	1年 2年	2020年 11月	情報、認知症裁判、貧困、水産業、18歳成人、公正、死刑制度、ジェンダー
川之江高等学校	3年	2020年 11月	情報、SDGs、18歳成人、死刑制度
南宇和高等学校	3年	2020年 11月	情報、死刑制度、生命倫理

<選択型授業>

授業回数 11回

(19年・20年、のべ数)

授業実践例①：こどもの貧困とよのなかについて

授業の展開	支援や声掛け	補足やポイント
① 「貧困」という言葉のイメージ ○ 貧困状況にいる子どもたちの数をクイズ形式で考える。		日本には貧困状態にいる子どもが少ないイメージを持ちやすいので、現実を知ってもらえるようにする。
② どうして日本は相対的貧困率が高いの？		絶対的貧困に比べて相対的貧困は、表に出にくく気づきにくい点を説明する。
③ 貧困がこどもに与える影響は？ ○ 貧困の連鎖について考える。	経済的問題だけでなく、精神的問題も含めて考えていくように声かけする。	貧困の連鎖がさまざまな影響をもたらしており、貧困の連鎖が続いていくことを伝える。
④ こどもの貧困対策について考えてみよう。	少しでも貧困状態の子どもたちを救うことができるかを考えさせる。	あらかじめ、この問題について完全に解決するのは難しいことを伝えておく。

【授業の感想（反応・手ごたえや課題に感じたことなど）】

まず、日本の中で子どもの貧困が問題になっていることを知らない生徒が多くいるな、という印象を受けた。**主権者として、まずは世の中の課題や問題について「知る」ことから始めなければならない**と思うので、**「知って、今後どうするかを考える」というワークをいれた点に関しては手ごたえがよかった**。ただ、子どもの貧困はさまざまな要因が重なって起きるものであり、何かをしたからと言って解決できることではないので、その部分を生徒に考えさせる難しさを実感した。生徒たちが、より当事者として考えられる授業の流れを作っていく必要があると感じた。

授業実践例②：裁判事例から、認知症を考える

授業の展開	支援や声掛け	補足やポイント
① 事件の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 概要を簡単に紹介する。 ○ 今わかっている部分以外は自分の中での想定で考えるよう指示する。 	法律用語を文字だけでなくイラスト等で説明する。
② もしも自分が裁判官なら、どんな判決をください？	<ol style="list-style-type: none"> ① 情報を様々な立場から考えられるよう、小出しにする。 ② 各班で話し合った後に全体で発表 	<p>思考ロックしないよう、常に「当事者（遺族）」「当事者（鉄道会社）」「第三者（客観的な視点）」に立って考えるよう声掛けをする。</p>
③ 未来に向けての提言を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会の中でどのように障がいを持つ人など関わっていくか。 ○ また、社会全体がどのように変わっていくべきか。 	<p>自分の考えを具体的に書くよう指示。また、どんな意見も否定しないように共有するときに心掛けさせる。</p>

【授業の感想（反応・手ごたえや課題に感じたことなど）】

何度かこのテーマで授業を行っているが、行く高校によってこの裁判に対する考え方が異なっている。**複数の立場に立って考える**ことができおり、裁判が社会に与える影響を感じてもらえていればいいなと思っている。③未来に向けての提言が、生徒の考えが認知症の人をどう支えればよいかという点で固まっているので、みんなが住みやすい街にしていくためにはどのような協力が自分にはできるか、ということを考えさせる発問に変えていきたい。

先生の反応：主体的な学び・対話的な学びの場の実現

- 身近なことであり、白か黒か簡単には決められない問題について、生徒たちが主体的に考えられていた。
- 生徒に身近な事柄を取り上げていたので、生徒たちは自然に真剣に考えることができていた。
- 正解・不正解ではない問いで、生徒たちは生き生きと自分の意見を発信し、また人の意見を聞いていました。

生徒の反応：当事者意識・主権者意識の涵養

【当事者意識の涵養】

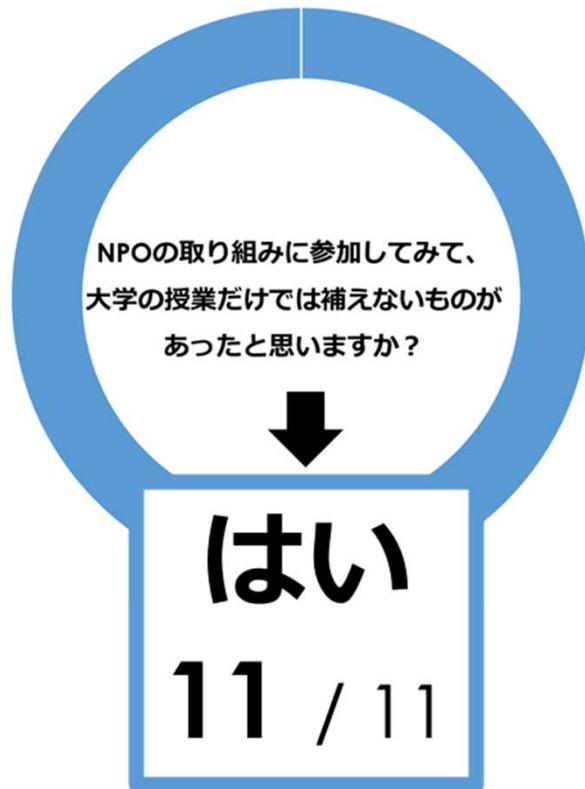
- いつもは考えないことを考えて、とても楽しかった。
- より関心をもってニュースなどをみたいと思います。
- 今後さらに勉強をして社会の一員であるという自覚をもった行動をとりたいと思うきっかけになりました。

【主権者意識の涵養】

- 主権者教育の意味を理解できた。政治は人ごとではないと思った。
- 主権者教育＝選挙だと思っていたので、必ずしもそうではないのだと気づきました。
- 自分も社会の一員だという気持ちで、来年から選挙にも参加していきたい。

2-②. 実施してみたての成果（アンケートより）

大学生の反応：主権者意識・授業の「実践感覚」の涵養



<それはどのようなものですか？>

- 主権者教育 = 選挙に関することであるという考え
だつたのが変わった。
- 主体的に自分から主権者教育とは何か、というこ
とを考えるようになったこと。
- 実際に子供相手にどのような反応が返ってくるか
わからないなかで授業をつくり実践する場は教育
実習以外にないためその経験。
- 授業の実践力、主権者教育の難しさを知ること
- 教科に関係なくゼロから自分で授業を作り上げて
いく経験が出来た

主権者教育の充実に果たすNPOの役割

① 「啓発的」ではない、 「批判的・創造的」な授業づくりのサポート

- 主権者教育は、「学び方の変化」であり、「学ぶ内容の変化」ではない。ただし、知識を「授ける」技術と、知識を「生かす」技術は別物。教員の負担を考えたときに、そこを専門的にできるNPOをうまく利用する意味はある。
 - 内容について、「啓発的」にならず、「批判的・創造的」になることが大事。そのため、先生も生徒も、また授業提供者も同じ「市民」であり「主権者」として、答えのない答えを一緒に作る学びあいの環境が必要であり、謙虚な気持ちで臨むことが大事である。
- ➡ これらにより、教員の負担を軽減しつつ「批判的・創造的」な授業づくりをサポートすることができる。

主権者教育の充実に果たすNPOの役割

②外部の参加による「開かれた空間」で 政治について議論する場の提供

- そもそも、学校そのものが「民主的」なのか、あるいは、学校は環境的に100%民主的でないといけないのか。いずれにせよ先生と生徒という「タテの関係」がある以上、学校の中だけで主権者教育を行うことには限界がある。
 - そういった意味では、開かれた学校の中にNPOなどが学校に入り、閉じた空間ではなく開かれた空間で授業を行うことで、「政治的中立への配慮」が緩和される。
- ➔ **先生と生徒の「タテの関係」に、外部の「ナナメの関係」を加えることで、「閉じた空間」ではなく「開かれた空間」で活発な議論が可能な授業を実現し、「政治的中立性への配慮」の緩和を可能とすることができる。**

主権者教育の充実に果たすNPOの役割

③若者の参画による

「生徒」「若者」双方の主権者意識の涵養。

- 外部の人が入ると、先生や生徒はその人の語りを「正解」だと思ってしまう。そのため、こどもたちにとって「たて」でも「よこ」でもない「ナナメ」の関係である地域の若者・大学生を活用すべきである。
 - 特に、教員を志す大学生は、授業スキルなどを高めることができ、また大学外の活動は貴重な経験となる。その際、大学の事業の一環ではないほうが、大学生が主体的に取り組む環境を確保できるのではと考える。
- ➔ **地域のNPOが参画することで、地域の若者・大学生の学校教育への参画、主権者教育の推進が期待される。加えて、地域の若者・大学生の主権者意識の涵養にもつながる。**

ご清聴いただき、ありがとうございました。

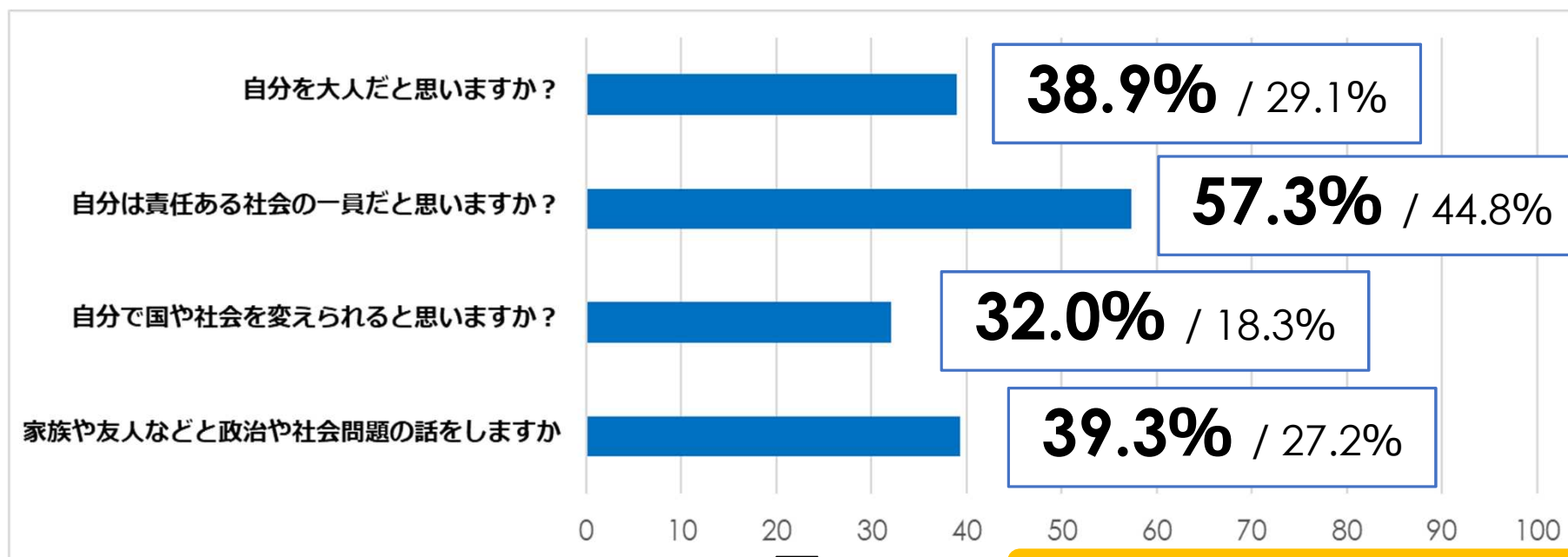
NPO法人 NEXT CONEXION

<http://www.nextconexion.org/>

Mail : contact@nextconexion.org / SNS : @nextconexion

愛媛県の高校生意識調査（回答数783名、NEXT CONEXION調べ）

（右の数値は、日本財団が2019年に実施した「18歳意識調査（社会や国に対する意識調査）を参照」）



愛媛の高校生は...

- 全国の高校生と比べ、数値的には高い。
- 日本財団が調査した他国との比較では低い。

愛媛県の高校生意識調査（回答数783名、NEXT CONEXION調べ）

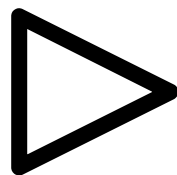
諸外国と
比べ...

高校生意識調査からわかること

- 自分が責任ある社会の一員だと思っていない。
- 自分で国や社会を変えられると思っていない。
- 社会課題について、積極的に議論しない。

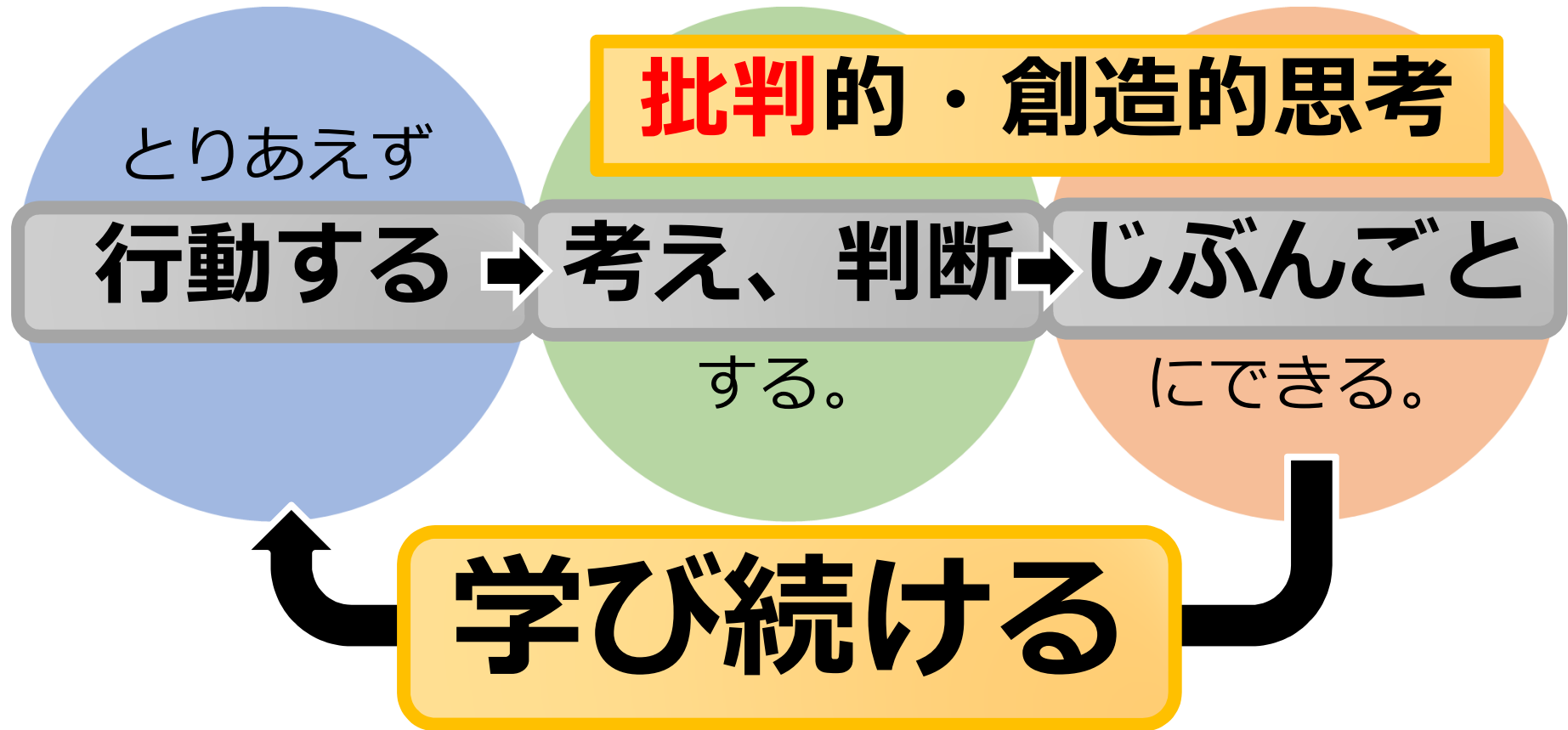
政治的無関心

選挙に行こう！



社会的無気力

当事者意識



主権者教育は「学び方改革」だ！

大学生を中心とした授業づくり



松山中央高等学校で実施した模擬裁判
では、現職の裁判官・検察官・弁護士の
皆様にご協力いただいた。

- 愛媛県立松山中央高等学校 2年生 (2018年8月 / 模擬裁判)
- 愛媛県立松山商業高等学校 3年生 (2019年4月 / 選挙啓発)
- 愛媛県立松山中央高等学校 3年生 (2019年6月 / 選挙啓発)
- 愛媛県立北条高等学校 3年生 (2019年6月 / 選挙啓発)

➔ 徹底してリアリティにこだわる！

＜同一型授業＞

授業回数 4回

(19年・20年、のべ数)

先生の反応：2020年11月17日@川之江高等学校

【プログラムの満足度：6人の先生からコメントをいただきました。】

- 満足した
 - ・ 興味を引く内容であったため
 - ・ 生徒が活発に話し合っていた。
 - ・ 講義の内容が生徒にとって身近なテーマで親しみやすかった。
- おおむね満足した
 - ・ 時間が足りず最後まで聞くことができなかつたのが心残りだったため。
 - ・ 身近なことであり、白か黒か簡単には決めきれない問題について生徒たちが主体的に考えられていたから。まとめの部分にもう少し時間があればとても良かったです。
 - ・ 生徒に身近な事柄を取り上げていたので、生徒たちは自然に真剣に考えることができていたから。
- ★ やや不満・不満は0でした。

【その他、感想などがあれば自由にお書きください。】

- ・ 生徒のレベルに合った、分かりやすい講義をありがとうございました。
- ・ 正解・不正解ではない問いで、生徒たちは生き生きと自分の意見を発信し、また人の意見を聞いていました。ありがとうございました。
- ・ 難しいテーマでしたが、わかり易く楽しい時間がもてました。

生徒の反応：2020年11月17日@川之江高等学校

- スライドを使いながら分かりやすい講義でした。いろんなことにもっと意欲的に取り組んでいきたいと思えました。
- すごいためになりました。分かりやすく、具体的な例なども紹介しつつ教えていただいて、おもしろかったです。
- とても難しかったけど、いろいろ考えることができました。
- いつもは考えないことを考えてとても楽しかった
- 知らなかったこともあったので、とても勉強になりました。
- より関心を持ってニュースなどをみたいと思います。
- いろいろな人の話を聞いて良かったです。
- 今後、さらにべんきょうをして社会の一員であるという自覚をもった行動をとりたいと思うきっかけになりました。若いいろいろな方々の話を聞きたい。いろんなことをもっと知りたい。

- **当事者意識の変化**
- **学習意欲の刺激**

- 主権者教育の意味を理解できた。政治は人ごとではないと思った
- これから大人になるにつれ社会について考えていきたいと思いました。
- 主権者教育を受けていたとき（高1のとき）は選挙に行こうと思っていたけど、いざ来年から選挙に行かないといけない今の状況での心境は何もわかっていないのに選挙に行ってもいいのか...と思った。自己肯定感が関係していると知り、たしかに...と思った。
- 主権者教育=選挙だと思っていたので、必ずしもそうではないのだと気づきました。
- 自分の持つ権利を正しく理解したいです。
- 自分も社会の一員だという気持ちで、来年から選挙にも参加していきたい

- **主権者教育への
理解の深化**

大学生の目線 – “実践感覚”を養える

<それはどのようなものですか？>

- まず、主権者教育＝選挙に関することであるという考えだったのが変わった。また、各教科や授業の指導法等の授業で1つの授業案をつくったり模擬授業を行うことはあるが、実際に子供相手にどのような反応が返ってくるかわからないなかで授業をつくり実践する場は教育実習以外にないためその経験。
- 主権者教育について考え、議論する場。自分が取り組んでいく際の指針作り。
- 実践力、授業開発力
- 授業の実践力、主権者教育の難しさを知ること
- 考え方、実践
- 実際の現場で授業をさせてもらう経験は貴重だと思う。
- 生徒の「生」の反応を見ることができる
- 教科関係なくゼロから自分で授業を作り上げていく経験が出来た
- 実際に教壇に立つことにより世の中の高校生の声だったり、教育者としての教え方だったりを学ぶことができた。
- 主体的に考えることができ、授業や実習という垣根を越えて、自分の考えた授業を実践することができること。それを踏まえて次の課題点を見つけて、改善できること
- 主体的に自分から主権者教育とは何か、ということを考えるようになったこと。

NPOの取り組みに参加してみて、
大学の授業だけでは補えないものが
あったと思いますか？



はい

11 / 11